2024 年 4-6 月展示・館員おすすめの本

「図書館のたからもの」

図書館の 1 階には雑誌のバックナンバーや古い本を保存している書庫があります。これらの資料はみなさんの目にあまり触れる機会はありませんが、懐かしい絵本や当時の暮らしを伝える本など、古さの中にも良い本がたくさんあります。背表紙を眺めたり手に取ったり、お気に入りを見つけたら図書館の好きな場所で読んでください。（原真由美）

『正チャンの冒険』東京朝日新聞　大正 14 年（1978 年ほるぷ出版より復刻）

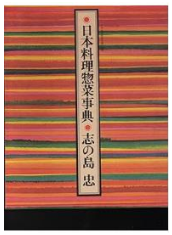
約 100 年前に生まれた漫画「正チャンの冒険」は、当時、日刊アサヒグラフに連載され、主人公の少年、正チャンと相棒のリスが繰り広げる冒険物語が大人気となりました。正チャンのトレードマークであるボンボンのついた帽子は当時大流行したそう。人物がとてもいきいきと描かれたカラフルな絵は今見てもまったく古さを感じません。文章や吹き出しは全てカタカナ、当時の人達が楽しんだ漫画をみなさんもどうぞ。

『暮しの手帖』暮しの手帖社　2 世紀第 1 号　昭和 44（1969）から所蔵

花森安治、大橋槙子によって 1948 年に創刊され、現在も発行を続ける生活雑誌。暮らしに役立つ料理、手芸、健康など多岐にわたる内容で毎号読み応え十分です。消費者が納得できるものを購入できるよう「商品テスト」（主に電化製品）を実施、他社の広告を掲載しないのが特徴です。良い商品の製造を生産者へ訴えるため労力を惜しまず、読者を思う雑誌づくりは現在も続いています。

『赤い鳥』（復刻版）赤い鳥社　1-12 巻（大正 7 年-昭和 11 年）

子ども達に質の高い童話や童謡を与えたい、作家・鈴木三重吉の思いから生まれた子どものための雑誌（大正 7 年～昭和 11 年発行）。執筆者には当時活躍していた島崎藤村、小川未明、北原白秋らを迎え、子どもたちから詩や絵を募集して掲載する取り組みも人気でした。昔の広告を見るのも楽しく「クラブ煉り歯磨」、「美味滋養 水無飴」など一体どんなものだったのでしょう。モダンな表紙や挿絵は子ども達の情操を豊かに育んだことでしょう。定価は 1 冊 18 銭でした。



志の島忠『日本料理惣菜事典』講談社　昭和 54 年（1979）

電子レンジがまだ一般的でなかった頃の料理の本。ひと手間かける工夫もまた楽しい！

倉橋惣三『育ての心』刀江書院　昭和 11 年（1936）

図書館で一番古い（88 年前）保育の本です。児童心理学者であり「日本のフレーベル」とも呼ばれ、保育と幼児教育の発展に尽力した人物、倉橋惣三は、みなさん授業でも習ったことでしょう。タイトルも右から左へ、値段は 1 円 50 銭。今でも読み継がれる本です。